

# 令和5年度 檜山地域づくり連携会議議事録

日 時：令和5年(2023年)8月7日(月)14:00～15:30

場 所：檜山振興局 4階講堂

出席者：別紙出席者名簿のとおり

議 題：(1)「地域づくり推進ビジョン」に係る地域重点プロジェクトの推進状況について  
(2)「道南連携地域政策展開方針」に係るプロジェクトの推進状況について

意見交換：地域資源を活かした新たな価値創出に向けた取組について  
～地域特性を踏まえた持続可能な地域の将来像～

## 【檜山振興局 山田局長】

定刻よりも少し早いですけれども、皆様おそろいですので、ただ今から、令和5年度檜山地域づくり連携会議を開催したいと思います。会議の進行は、私、檜山振興局の山田が行わせていただきます。

本会議は、北海道総合開発計画を推進する国と、北海道総合計画を推進する道の共催によりまして、国・道・町・民間団体などの地域の多様な主体の方々が、魅力と活力ある地域の将来像を共有し、それぞれの役割分担のもと、連携・協働して、地域づくりを進めていくことを目的に毎年開催しております。今回の連携会議は3年ぶりに対面による開催とさせていただきます。新型コロナウイルスの位置づけが5類になり、人々の行動変容が見られる中、コロナ禍を経て浮き彫りになりました地域の課題、あるいはその対応などにつきまして、皆さんからご意見を賜りたいと思います。

なお、本日の会議の議事につきましては、議事録を作成いたしまして、振興局のホームページに掲載いたしますので、あらかじめご承知おきください。よろしくお願いいたします。それでは、会議の主催者を代表いたしまして、北海道開発局函館開発建設部よりご挨拶申し上げます。岡下部長、よろしくお願いいたします。

## 【函館開発建設部 岡下部長】

函館開発建設部の岡下でございます。せんえつながら一言ご挨拶申し上げます。本日はお忙しい中、檜山地域づくり連携会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より北海道開発行政の推進にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

皆様にもご相談しておりました、次期計画でございます第9期の北海道総合開発計画につきましては、おかげさまで、作業部会での検討がまとまりまして、来月15日に北海道開発分科会で審議される予定となっております。その後、パブリックコメント、分科会でのとりまとめを経て、閣議決定の予定となっております。9期計画では目標が2つあり、1つ目は「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障・観光立国・ゼロカーボン北海道～」、もう1つが「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり～」となっております。

檜山管内におきましては、9期計画を先取りしている部分も多々あると思っております。農林水産業の振興に関する取組のほか、再生可能エネルギーの活用による脱炭素化に向けた取組など、様々な取組が行われていると思います。自治体、企業など関係者が連携して、地域の強みである再生可能エネルギーなどの地域資源を最大限活用することで、産業の振興による生活の向上や防災など地域課題の解決にもつながっていくことを期待していると

ころでございます。本日の会議では、地域資源を活かした新たな価値創出に向けた取組について、地域特性を踏まえた持続可能な地域の将来像をテーマに意見交換をお願いしております。皆様の地域の強みを生かした取組や、将来の展望について、ぜひお聞かせいただきたいと思っております。本日は、忌憚のない活発なご意見を頂ければと思います。

また、熱い議論をお願いしたいと思っておりますが、すでに室内は議論の前から暑いと思っておりますので、水分補給を忘れずにご参加いただければと思います。それでは、本日はどうぞよろしく願いいたします。

### **【檜山振興局 山田局長】**

岡下部長、ありがとうございます。本日の出席者につきましては、お手元に配付しております出席者名簿及び配席図をご覧ください。

それでは議事を進めて参りますが、概ね 15 時 30 分までには終了したいと思っております。皆様の議事進行へのご協力について、どうぞよろしく願いいたします。お手元の資料の関係ですが、念のため確認させてください。配布資料は大きく 1、2、3、とあります。資料 1 が 1-1 から 1-3 の 3 種類。資料 2 が同じく資料 2-1 から 2-3 までの 3 種類。そして、資料 3 といたしまして 3-1 から 3-3、トータルで 9 種類、お手元にあるかと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、議題 1 でございます。地域づくり推進ビジョンに係る地域プロジェクトの推進状況につきまして、函館開発建設部からご説明いただきます、よろしく願いいたします。

### **【函館開発建設部 藤野地域振興対策室長】**

函館開発建設部地域振興対策室の藤野と申します。よろしく願いします。座って説明させていただきます。

それでは、「地域づくり推進ビジョン」に係る地域重点プロジェクトの推進状況についてご説明させていただきます。資料のボリュームがあるので、具体的な中身の説明は時間の都合上割愛させていただき、資料の構成やイメージについてのみ、簡単ではございますが説明させていただきます。

まずは資料 1-1 ですが、道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」は、国が策定する北海道総合開発計画と北海道庁が策定する北海道総合計画の地域展開を図るため、道南に限らず全道各地域において策定しており、資料 1-1 は、その概要となっております。資料の 1 ページ目から 2 ページ目がそのイメージであり、地域の皆様と連携・協働の取組を推進するための、今後 10 年の地域の方向性を示すものとして、「地域の現状と課題」、「地域のめざす姿」、「地域重点プロジェクト」の 3 本の柱で構成されております。北海道檜山振興局と北海道開発局函館開発建設部は、このプロジェクトの推進状況を、毎年開催させていただいておりますこの会議の場において、構成員の皆様にご確認いただいております。

また、本プロジェクトは、構成員の皆様に伴走していただく形で施策に取り組んでいくことで、魅力と活力ある地域社会の実現を目指すことを目的としております。資料の 3 ページ目から 5 ページ目は、道南連携地域でこれまで検討・共有してきました、地域の課題、地域のめざす姿、地域重点プロジェクトについてまとめた資料となっております。こちらは、後程ご覧いただければと思います。

次に資料 1-2 ですが、地域づくり推進ビジョンの詳細、具体的な内容が記載された本編となっており、20 ページ目以降に、地域重点プロジェクトがまとめられております。主な基盤整備について、昨年度から進捗があった部分を、赤字で追記しております。時間の

都合上、詳細な説明は割愛させていただきますが、57 ページ以降の環境関連プロジェクトのゼロカーボン北海道実現に向けた取組について、各町において大きく推進していることがわかるかと思えます。

続いて、資料 1-3 ですが、函館開発建設部が進めております地域プロジェクトの推進状況の説明資料となっております。函館開発建設部では、1 ページ目の「人が輝く地域社会の形成プロジェクト」、4 ページ目の「世界に目を向けた産業の振興プロジェクト」、6 ページ目以降の「強靱で持続可能な国土の形成プロジェクト」の 3 つのプロジェクトを主軸に推進しております。8 ページ目以降に関しましては、主な施策事業の推進状況についてわかりやすく説明した資料となっております。函館開発建設部では、引き続き、ハード面・ソフト面両面で各施策を進め、プロジェクトの充実を図って参りたいと考えております。資料 1-1 から 1-3 の地域づくり推進プロジェクトに関する説明は以上でございます。

資料の後半に綴っております、資料 3-1 から 3-3 についてですが、こちらはご参考として添付させていただいておりますが、簡単に説明させていただきたいと思えます。

第 8 期北海道総合開発計画に基づきまして、北海道開発局では、北海道の食と観光を支える生産空間の維持発展に向けて、旭川・帯広・釧路の 3 つのエリアをモデル地域に設定し、北海道型地域構造の保持・形成に関する取組を進めておりますが、資料 3-1 につきましては、モデル地域外の取組事項について紹介した資料となっております。函館開発建設部の取組に関しましては、4 ページ目に記載されておりますが、漁業者の安定した収益・雇用の創出・所得の向上などを目指しまして、奥尻地区海藻生産活用調査検討協議会の支援をしております。

資料 3-2 につきまして、国土交通省北海道局及び北海道開発局では、北海道総合開発計画の企画立案及び推進に必要な調査を実施し、ホームページで結果を公表しておりますが、この重点事項調査の紹介資料となっております。

最後に資料 3-3 になりますが、国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所から、地方公共団体の技術支援、土木技術に関する諸問題の相談など、自治体の皆様への支援に関する説明の資料となっております。

資料に関しては以上でございます。簡単ではありますが、函館開発建設部からの説明を終わります。

### 【檜山振興局 山田局長】

ありがとうございます。ただいまの説明に関しまして、ご質問・ご意見等ございませんでしょうか。

(質問・意見等なしの声)

それでは続きまして、議題 2、道南連携地域政策展開方針に係るプロジェクトの推進状況につきまして、檜山振興局よりご説明いたします。

### 【檜山振興局 山本地域政策課長】

檜山振興局地域政策課の山本と申します。よろしく申し上げます。座って説明させていただきます。

私から、道南連携地域政策展開方針に係る各プロジェクトの推進状況について説明させていただきます。本議題では資料 2-3 をもとに説明させていただきますが、簡単に資料 2-1、2-2 についてご説明いたします。

道南連携地域政策展開方針では、地域の目指す姿の実現に向けて、地域の強みや、可能

性などを活かし、地域の多様な主体と連携・協力しながら、6つのプロジェクトに取り組んでおります。資料2-1において、各プロジェクトの詳細について記載されておりますので、後程ご覧ください。

次に資料2-2ですが、各プロジェクトに基づいた、渡島・檜山両地域での令和4年度の主な取組、KPIの進捗状況について記載しております。コロナ禍の影響で、一部足踏みしているものもございますが、概ね堅調に推移しております。こちらも恐れ入りますが、詳細については後程ご覧ください。

それでは本題に入ります。各プロジェクトにおける令和5年度の檜山地域での主な取組についてご説明させていただきます。資料2-3をご覧ください。なお、縄文遺跡群を活用した魅力発信と誘客促進プロジェクトにつきましては、渡島総合振興局が中心のプロジェクトでございますので、今回の説明は割愛し、資料に記載しております5つのプロジェクトについてご説明させていただきます。

まず、「北海道新幹線の札幌開業を見据えた交流・定住促進プロジェクト」についてですが、コロナ後の観光需要の高まりを好機ととらえ、ひやま観光推進キャンペーン実行委員会による誘客キャンペーンや首都圏でのイベント実施、SNSを通じたPR等、情報発信体制を強化しております。

また、地域おこし協力隊について、渡島地域との連携のもと、実践力の向上や隊員相互の交流を深めるための研修会を開催し、任期後の地域への定着促進を図っています。

次に、「道南の優位性を活かしたカーボンニュートラルへの挑戦プロジェクト」についてですが、昨年度当局に導入しましたEV公用車及びソーラーカーポートを活用し、ゼロカーボンドライブの実践やその普及を通じ、地域全体での脱炭素化を推進して参ります。

また、檜山沖が再エネ海域利用法に基づく有望区域となった洋上風力発電につきましては、先進地域の状況や好事例の情報収集に努めるなど、促進区域への指定にむけた取組を行って参ります。

次に「地域に根差した農林水産業の持続的発展プロジェクト」についてですが、サーモン養殖やにしんの稚魚放流の推進など、農林水産物の生産力向上にむけた取組を行って参ります。

また、養殖水産物や道南スギなど、檜山管内の一次産品のPRイベントを行い、より一層の知名度向上、販路拡大につなげて参ります。担い手不足の解消に向け、高校生を対象にした農業法人へのインターンシップや、福祉事業者を対象とした農作業体験会を実施して参ります。

次に、「くらしの安全・安心を支えるまちづくりプロジェクト」についてですが、公共交通機関の運転手不足解消に向け、渡島地域との共催による、バス運転手の確保に向けた合同就職相談会の開催、広域バス路線の見直しに向けたプロセスのモデル化など、公共交通の維持・管理に努めて参ります。

また、江差高等看護学校などとの連携強化による、南檜山二次医療圏における地域医療の確保、振興局職員の対応力強化に向けた災害対策や檜山地方本部指揮室設置運営訓練、管内小中学校における1日防災学校の実施などを通じて、安心・安全な暮らしを確保して参ります。

最後に、「地域の強みを生かした産業活性化・雇用創出プロジェクト」についてですが、若年層や早期退職者を対象とした企業情報を発信する説明会の実施、企業の働き方改革に向け個別課題を解決するアドバイザーの派遣や働き方改革の推進に向けたセミナーの実施により、雇用の創出・定着を図って参ります。

以上、手短ではありますが、檜山振興局からの説明とさせていただきます。

## 【檜山振興局 山田局長】

ただいまの説明に関しまして、ご質問・ご意見等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

(質問・意見等なしの声)

それでは、議題1、議題2につきましては、本資料のとおり進めさせていただきたいと思っております。

次に、意見交換に移ります。まず初めに、北海道総合計画に関しまして、私からお話させていただきます。道の総合計画でございますが、長期的な展望に立ちまして、道の政策の基本的な方向を総合的に示す計画であり、これまで2025年、令和7年までを計画期間として推進してきたところですが、昨今の社会経済情勢の大きな変化や課題に的確に対応していくために、道では新たな総合計画の策定に着手することにしております。新たな総合計画は2024年、令和6年の夏を目途に作っていく方向になっております。

また、総合計画と連動します、北海道創生総合戦略につきましても、総合計画や国の長期ビジョンの内容も踏まえて、新たな戦略の策定を進めることとしておりまして、本日の会議におけるご議論も踏まえながら、策定作業を進めて参る考えでございます。

意見交換におきましては、こうした長期的な視点に立ちまして、地域資源を活かした新たな価値の創出に向けた取組をテーマといたしまして、地域特性を踏まえた持続可能な将来像の実現に向けて推進すべき取組について、幅広くご意見を伺えればと思っております。

また、大変申し訳ございませんが、時間の都合等もございますので、1人5分程度でご発言いただければと思っております。よろしく願いいたします。

それでは最初に、江差町の照井町長から、ご発言をよろしくお願いいたします。

## 【江差町 照井町長】

江差町の照井でございます。日頃から函館開発建設部、檜山振興局には大変お世話になっております。私からは、江差町の取組について、2つお話しさせていただければと思っております。

1点目は、町のシンボルであるかもめ島周辺で行っております、かもめ島マリリンピングについてお話をさせていただければと思っております。将来的には、このエリアに道の駅を建設したいと考えております。その上で、この地域を親子連れが楽しめる拠点にしていきたいという思いがあるなかで、日本財団の助成をいただきながら、2年前からマリリンピングという、マリレジャーを中心に、地域の文化を知っていただく海洋体験などを広く周知しながら、拠点化に向けて活動しているところでございます。手ぶらキャンプ、あるいはグランピング施設を建て、泊まっていただく仕組みを作りながら、より長く滞在していただき、江差町にお金を落とすしていただく仕組みづくりをしております。

今年度は3年目の取組になりまして、また日本財団から2000万円以上の助成をいただき、グランピング施設を1基増設し、価格帯の違う魅力をつけ、より収益をあげられるような仕組みづくりをしております。

今年度は北海道開発局の推薦もあって、日本港湾協会の企画賞をマリリンピング事業がいただきました。我々の地域にとっては非常に励みになることであり、今後もしっかり自走できるように、次年度につなげていきたいと思っております。

また、8月15日からは海洋体験に新たなメニュー、SUP(サップ)の体験も出来るよう

に準備を進めているところでございます。北海道の海の時期は短いですが、なるべく長く SUP 体験ができるように、9月いっぱいくらいまでは体験できるように準備を進めているところでございます。

もう1点は、公共交通の分野において、サツドラホールディングスと連携し、地域にバスよりも利便性が高く、またタクシーよりも安価に乗れる新たな公共交通手段として「MaaS」という仕組みの導入、実証実験を行っております。これまで、経済産業省の助成で2回、国土交通省の実証プロジェクトで1回、計3回実証実験を行い、今年度、令和5年度は国土交通省の事業で4回目の実証実験を秋から行っていく予定です。令和6年度の早い段階で本格運用して、住民の利便性の向上、買い物あるいは通院に対して利便性の高い新たな公共交通手段として、このMaaSを取り入れていきたいと思っています。

この仕組みには、はこだて未来大学のベンチャー企業である未来シェアという会社のAIの技術を使っており、より効率的に運行するルート設定や予約などを一体的にできるような仕組みを取り入れていきます。

また、公共交通に留まることなく、サツドラと連携しながら、商業につながる仕組みとして、サツドラで使用することができ、また地域の商店街約40店でも使える江差EZOCAという共通のポイントカードを導入し、利用促進を図っていききたいと思っています。

今課題となっているのは、運賃をどうしていくのか。運賃について、最終段階で進めているところですが、今までは、江差町を2カ所のエリアに分けて運行してきたものを、全町どこにでもいける仕組みにしながら、バスとタクシーの間を縫う、新たな公共交通を構築していきたいというふうに思っております。江差町からは以上でございます。

### 【檜山振興局 山田局長】

ありがとうございます。かもめ島のマリンスポーツ、それからMaaSの大きく2点についてお話いただきました。

それでは続きまして、上ノ国町の工藤町長、よろしく申し上げます。

### 【上ノ国町 工藤町長】

上ノ国町の工藤です。今回の意見交換のテーマは、地域資源を活かした新たな価値創出ということでございますので、うちの方から1点、ご紹介させていただきます。

地域資源ということで、上ノ国町には小学校の廃校施設が4校あります。そのうち2校が、2014年、今から9年前に廃校しており、建設してからまだまだ月日がたっていない、相当な利用価値があるということで、何か利用方法がないかなと模索しておりました。当時、偶然、長野県の方に視察がありまして、ワイナリーを視察していたら、若い人たちがたくさん訪れておりました。ですから、ワイナリーは観光資源になるなということで、すぐに、今から9年前ですが、ワイナリーを誘致したいということで公約に掲げました。

実は先週、ある企業のアドバイザーが来て言うには、「工藤町長、今どこの町に行っても、首長がワイナリーって言います。」と言ってきたので私は「何を言っているんだ、私は9年前からそう言っていた」と返したわけですが、なぜワイナリーに着目したのかというと、実はうちの町は、新幹線のある木古内町の隣に湯ノ岱という地区があり、そこから約20分で木古内まで行けるという最高の立地条件にあります。また、湯ノ岱という小さな集落ですが、そこにはスキー場がありまして、温泉もあります。その温泉は、炭酸泉という、希少で大変観光客に喜ばれる泉質になっております。その他にも、鮎釣りが出来る、山菜の宝庫、寒暖の差が激しいことから、秋になると紅葉がすごく鮮やかということもあり、これら全部が観光資源になるので、そこを拠点にした観光振興をした

いということで、ワイナリーをつくりました。

ある方と会ったときに、新幹線の駅と高速のインターチェンジ、そこはあまり発展しないけれども、そこから車で1時間圏域は相当な発展をするといった話をしており、そうするとちょうど上ノ国町あたりがいいのかなということもありまして、みなさん新聞等でご覧になられているとおりに、昨年からワインを初出荷し、おかげさまで結構売れております。

また、コロナによってテレワークが相当推進されているということで、空き教室を利用したテレワーク施設も作りました。個人で泊まれるのは8部屋、家族で泊まれる部屋が2部屋と、計10部屋を用意しております、それなりにお客さんも泊まっているところで

また、ワイナリーは上ノ国開発という企業が作ったわけですが、皆さんも新聞等で見られたと思いますが、GACKTと協定を結びました。それによって、申込者の名前で苗木を植えて、5年後から5年間、その方にワインを送ります。1人11万円ですが、100人以上の人が応募しており、まだまだこれからファンの方を中心に、上ノ国を訪れるいいチャンスかなと思っております。

ワイナリーですけれども、確実に言えるのは、ワインをつくるのが目的ではなく、あくまでもワイナリーを作っていくにお客さんに来てもらうか、相対的にその1番起点となる、木古内町、上ノ国町、そして江差町の3町が、単町だけでなく、少なくとも3町がこの檜山の入り口になるような連携を組もうということでやっております。その追い風になってほしいのが、やはりどうしても高規格の函館-江差道路。木古内まで来ていますので、なんとか我々も頑張りますので、1日も早い江差までの実現を、これからも誘致をなんとか頑張っていきたいなど、それによって観光客を1人でも多く、この地に来てもらうような施策を展開していきたいと考えているところでございます。

### 【檜山振興局 山田局長】

ありがとうございます。小学校廃校跡地を使ったワイナリーのお話、そしてそれを交流人口の拡大につなげていくという取組の話でございました。

それでは続きまして、厚沢部町の佐藤町長、よろしく申し上げます。

### 【厚沢部町 佐藤町長】

厚沢部町の佐藤でございます。私からは、今、当町で取り組んでおります、保育園留学についてご紹介申し上げたいと思います。若干、今回のテーマとはずれるかなということもありますけれども、認定こども園も地域資源の1つかなということでご紹介させていただきます。

この事業は、厚沢部町と都会の子育て家族をつないで、お子さんが町の認定こども園はぜるに通い、その間親御さんは、町の用意した体験住宅でリモートで仕事をしながら、約2週間厚沢部町の暮らしを体験していただくという内容でございます。将来的には、保育園留学されたご家族の中から、厚沢部町への移住につながればいいなという思いで取り組んでおります。

現在、保育園留学を体験されたご家族が1組、移住されております。先日、北海道新聞でも報道されましたけれども、今年の3月に保育園留学を体験されたご家族が、是非厚沢部に住みたいということで、ご主人は仕事の都合で東京に住居を構えておりますけれども、奥さんとお子さんがこの6月に移住されて、お子さんは認定こども園に通われているという状況です。

元々、この事業を一緒に取り組んでおります民間の会社の社長家族が、保育園留学が始

まる前に、厚沢部町のちょっと暮らし住宅で疑似移住体験をして、お子さんを認定こども園に一時預かりした経験から、この取組を何か事業化できないかということで町と協議を重ねて、移住体験と一時預かりをセットにした保育園留学がスタートしたという経緯でございます。社長家族は昨年5月に、町内の空き家に家族で移住して、東京の本社と厚沢部町と両拠点で仕事をされております。お子さんもこども園に通っているということで、社長家族を含めると、この2年間の間に2家族が移住につながっているという状況です。

昨年度の保育園留学の体験者は150組、526人で、体験者のリピート希望率がなんと97%を超えていると、大変な人気になっております。昨年度、滞在中に地元で消費していただいた金額ですけれども、アンケートをした結果、1家族につき大体2週間程度で20万円程度ということでございます。年間にすると約150組ということで、約3,000万円のお金が落ちているということになります。これは、厚沢部町だけではなく、近隣の町にも回って歩いているということでもありますので、道南地域、檜山を中心に3,000万円くらいのお金が落ちているということとなり、大変な経済効果だと驚いているところです。

この他にも、体験住宅の使用料で1,200万円、一時預かり料で360万円、ふるさと納税もしていただいて、これが200万円くらいであります。

現在、留学希望が全国から殺到しており、2,000組を超えているという状況でございます。7月19日に、東京の方で日本子育て支援大賞という賞を受賞して参りました。道内自治体では初の受賞ということで、今年度の自治体の受賞は全国で4自治体しかありませんでした。これまで本町が取り組んできた子育ての様々な支援策が認められた結果なのかなと思っております。審査員の先生の話聞いたところ、賞を取るにはインパクトが必要で、保育園留学の取組が高い評価を受けたと伺っております。

保育園留学を受け入れるための住宅が不足していること、あるいは移住の問い合わせは何件かあるものの、住んでいただく住宅がすぐに確保できないというのが今の課題となっております。今年度、民間で2戸ほど建設しますが、まだまだ足りないのかなと思っております。今後も、子育て支援を図りながら、保育園留学の取組を中心に、移住・定住に結びつけて町の活性化を図っていきたくと考えております。以上になります。

### 【檜山振興局 山田局長】

ありがとうございます。保育園留学を通じた地域活性化の話でございました。それでは続きまして、乙部町の寺島町長、よろしく申し上げます。

### 【乙部町 寺島町長】

乙部町の寺島でございます。よろしく申し上げます。乙部町では、交流人口及び関係人口の拡大という切り口で、従来より、自然景観や農水産物、文化、人材などの地域資源を活かし、絡め合わせた関係人口の拡大については、やはり人口減少が極度に進んでおります現況においては、人材確保への懸念から、地域の活性化を図る上で重要な取組だと位置づけております。

コロナ禍以前から、東京や札幌でのふるさと会の開催を行って参りましたし、各地で特産品・観光・移住PRのイベントも行って参りましたが、今年度、やはりコロナの対応が変わってきて、ふるさと会の開催ですとか、さらにテレビ番組やCM、SNSの活用により、当町の認知度を上げていきたいと考えております。

当町の滝瀬海岸の白い断崖のシラフラは、おかげさまでテレビ・CM・雑誌等の媒体やSNSを通じて認知されるようになり、来訪者が増えてきております。それにあわせて、今年度から来年度にかけて、展望デッキ、階段、駐車場や休憩所などを整備していきたいと



考えております。

海だけではなくもう1つ、我々の地域資源であります、富岡地区・連理の木の縁桂についても、林道のアクセスの整備がまもなく終了しますので、それにあわせて、駐車場や休憩スペース、トイレの整備、特に北海道電力さんのご理解をいただきまして、駐車場まで電気がとおせるような段取りとなりました。

今年の秋に向けまして、北海道移住・交流フェアにも参加させていただきながら、ふるさと納税のイベントとして、北海道フェア in 代々木、それから横浜市でのふるさとチョイス大感謝祭、あるいは道内におけるふるさと応援フェスタ in チカホ等において、ふるさと納税の認知に努めてまいりたいと考えております。

また、交流人口増に関しまして、9月10月に市民大学であります丸の内プラチナ大学の逆参勤交代コース、そちらに参加させていただきながら、首都圏の方々を当町にお呼びして地域課題解決、また、それと同時に各学術機関のゼミ生等を当町にお招きしながら、地域課題の検討等の取組を行って参りたいと考えております。

以上でございます。いずれにしても、前寺島町長が重点的に推し進められました、そして今現在、大きな成果を示している企業誘致、こちらについても、当町にゆかりのある方や、思い入れのある方が端を発しており、そのことがまさに関係人口による地域活性化と捉えておりますので、こちらについても、乙部町としてさらに進めていきたいと考えております。よろしくお願ひします。ありがとうございました。

### 【檜山振興局 山田局長】

ありがとうございます。半分の町にご発表いただきましたけれども、ここまでのところで、ご質問・ご意見等ございますでしょうか。

(質問・意見等なしの声)

それでは続きまして、奥尻町の田中副町長、よろしくお願ひします。

### 【奥尻町 田中副町長】

奥尻町副町長の田中です。本日は新村町長が別用務で出席できないため、私の方から代わりに、当町における2つほどの話題を述べさせていただきます。1つはゼロカーボンの推進についてです。水産における取組についても発言させていただきます。

最初に、ゼロカーボンの推進についてですけれども、当町は昨年11月に環境省から脱炭素先行地域に選考されました。それを受けまして、12月6日に奥尻町ゼロカーボンシティ宣言をしております。

本町では、島の西海岸に温泉が湧出しており、その地中熱を利用しまして、平成29年から地熱バイナリー発電を開始しております。計画出力は約250kwで、そのうち200kwを北海道電力に売電しております。脱炭素先行地域に選定されたことを受けまして、この地熱バイナリー発電を750kw増設し、全体で1,000kwの発電を目指しているところです。

さらには、発電の過程で発生いたします温泉水の再利用についても検討しており、再利用の案としまして、奥尻高校で実施しておりますまちおこしワークショップにおいて、高校生から提案がありました、濃縮温泉水としての商品化実現にむけて、町としても検討しているところです。

また、行政としましては、エネルギーを地産地消するため、公用車と商業バスのEV化を予定しております。現在函館の企業より2台、無償貸与していただき公用車として利用しております。今月下旬に開催予定の、奥尻町3大祭りの1つである「なべつる祭り」

において、町民へのPRを予定しておりますとともに、高齢者や観光客向けにリースオンモビリティの導入も検討しているところです。

一方、現在建築中であります奥尻町総合庁舎におきましても、役場庁舎と消防庁舎を構築しまして、町民の暮らしの拠点及び防災拠点としての機能を持たした施設としております。この総合庁舎についても、環境に配慮し、ZEB化や省エネルギー設備を導入した建築を目指しているところです。このように当町では、脱炭素の取組を通じまして「サステイナブル・アイランド奥尻」を目指しております。

続きまして、もう1つの取組、水産業における取組について、水産業は本町における主要産業ですが、ここ数年はイカ漁の不振などから、非常に厳しい状況が続いているところです。このため、本町では漁獲の安定と離職防止のため、つくり育てる漁業を推進しており、令和3年度からは、トラウトサーモンの試験養殖を開始したところです。令和4年度には753尾を初水揚げし、令和5年度はいけすを増設いたしまして、2,843尾を水揚げしたところでございます。主な販路として、道内の水産加工業者や道外の大型商業施設に出荷しております。

また、岩牡蠣も養殖しており、ここ数年でようやく安定して殻と中の実が同じような大きさになるまで成形するようになり、町民に供給できるような体制となってきました。

この他、島近隣で生息しておりますホソメコンブにスポットをあてまして、函館開発建設部の協力も得まして調査を進めるうちに、十分な栄養素が含まれていると示されたことから、令和4年度には昆布だしとして、5種類の商品化に成功しております。令和5年度におきましては、ホソメコンブを使用した化粧水も商品化しました。さらには、ブルーカーボンの必要性も近年は叫ばれていることから、ホソメコンブの需要は今後も高まっていくと思われまします。こうした取組が、漁業者の経営安定や新たな奥尻ブランドの創出につながると期待しているところでございます。以上、私からの発言とさせていただきます。

### 【檜山振興局 山田局長】

ありがとうございます。地中熱を利用したゼロカーボンの取組、また、養殖をはじめとした水産の取組のご紹介でした。

それでは続きまして、今金町の中島町長、よろしくお願ひします。

### 【今金町 中島町長】

今金町の中島でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。私からまず、今年の8月に発生した大雨災害で、後志利別川流域であります今金町の市街地の一部も氾濫を起こしまして、床上浸水が16戸、床下浸水が57戸の被害があったところでございます。その後、北海道開発局様、函館開発建設部様、今金河川事務所様、それから振興局の皆様にご配慮をいただきまして、堤内の排水路の改良、排水ポンプ作業場の造成、排水ポンプの横断設備の整備など、7月から9月の出水期を迎える前に実施をしていただきました。ありがとうございます。昨日も大雨洪水警報が出ましたけれども、少し安心しながらその水位を見させていただきました。関係の皆様にご心から感謝を申し上げたいと思ひます。

さて、意見交換のテーマであります、地域資源を活かした新たな価値創出へ向けた取組ということで、私から2点、今取組もうとしていることについてお話しさせていただきたいと思ひます。

1つ目は、美利河地区の観光の推進、新たな価値の創出ということでお話をさせていただきたいと思ひます。現在、冬はスキー場、夏はキャンプ場を中心とした観光事業を推進しておりますが、ここには先ほど函館開発建設部からもお話があった美利河ダムがあり、函館開発建設部の動きの中にも、美利河ダムの水源地域ビジョンということで、観光的な

ものが必要というような取組が提示されていますので、こことも連動した形で動いていきたいと考えております。

美利河地区につきましては、文化財関係もありますので、文化財と観光を一緒にしたような取組も是非やっていきたいと思っております。砂金の採掘跡が、昨年、北海道遺産に指定されたということもありますので、先ほど工藤町長もおっしゃっていましたが、檜山の観光の入口としては、今金町もそういった役割を担いたいと思っております。新幹線が通ると、そこから15~20分で来ることができますので、せたな町に加えて、檜山管内だけでなく、長万部町・八雲町と4町で連動した形で推進をしていきたいと思っております。

2つ目が、今金町の面積の約8割は森林で、なおかつ森林面積のうち40%は民有林という状況になりますが、この森林に関しての取組が、チップに使うといったものくらいしかないのが現状となっております。そこで、少し考えていたのは、民有林を持っている事業者と連動し、森林資源の付加価値を高める多角的な事業展開による持続可能なまちづくりプロジェクトをつくりまして、先進地にも視察に行き、うちには木材関係の山一木材もありますので、町内で勉強会を開き、是非この森林を活用した持続可能なまちづくりを行いたいと思っております。今のままでは宝の持ち腐れのような感じになりますので、そういった点でも今始めようと思っておりますので、今後関係の部署にもお世話になったり、指導をいただいたりということを進めていきたいと考えております。

今金町からは、美利河の資源を活用した部分と、それから森林を活用した部分での新たな付加価値ということで話をさせていただきました。どうぞよろしく申し上げます。

### 【檜山振興局 山田局長】

ありがとうございます。それでは、各町の取組の最後になりますが、せたな町の高橋町長、よろしく申し上げます

### 【せたな町 高橋町長】

せたな町の高橋です。よろしく申し上げます。地域資源の活用について、取り組んでいる2点ほど話をさせていただきたいと思っております。

まず1点目ですが、ふるさと納税についてでございます。先月の道新には、寄付金額2億9,461万円と記載がありますが、一般寄付が1億円ほど含まれておりますので、ふるさと納税額としましては1億9,200万円程となっております。

せたな町では、平成27年4月1日から、ふるさと納税ポータルサイト・さとふるにより本格的なふるさと納税事業をスタートしておりますが、毎年1億円を超える寄付をいただきまして、平成29年は3億円を超える寄付額となっております。しかし、制度改正等もありまして、徐々に寄付額が減ってきている状況でございます。昨年度、新たな特産品開発やふるさと納税を担当する地域おこし協力隊を採用しまして、その成果もあり、令和4年度については寄付額が1億9,200万円と、少し回復したところでございます。

今年度から、ふるさと納税ポータルサイトの掲載数を昨年度の2箇所から17箇所に増やし、返礼品を扱う事業者へのアプローチ・相談などを実施しているところです。

7月末現在ではありますが、こうした取組の成果もあり、対前年比で寄付額が倍増しております。制度改正もありますが、これからも魅力ある地場産品を提供して参りたいと考えております。

2点目は、再生可能エネルギーの推進であります。2050年のカーボンニュートラルに向け、改正温対法により地域の脱炭素化が推進されているところですが、檜山は漁業が低迷しているという状況にあり、さらには少子高齢化・人口減少が他の地域に比べて進んで

いる現状にあり、各町これらの課題解決に苦慮しているという状況でございます。

しかし一方で、風力・太陽光・地熱・温泉熱などに関し、高いポテンシャルを有する地域であるということも事実であります。そこでせたな町では、環境省の補助事業で令和3～4年度の2カ年で地域エネルギービジョンを策定し、併せて同じ補助事業により再生可能エネルギーゾーニングマップを作成し、更なる再エネ導入を目指したいと考えているところです。

また、改正温対法によりまず地域脱炭素化の促進におきましても、環境省に協力いただきながら、促進区域や目標の設定、環境保全のための取組、地域経済及び社会の持続的発展に資する取組などを整理したところです。本年6月には、せたな町ゼロカーボン推進協議会を設置しました。陸上では、現在、2事業者による10万キロのウィンドファームの着工を目指して進めているところです。

檜山管内、全ての町がゼロカーボンシティを表明しておりますので、二酸化炭素の削減に向け、再エネ資源の活用を考えることが必要だと思います。有望区域となった檜山沖についても、各町や関係団体と協力しながら、速やかに法定協議会を設置して、檜山の未来を考え、確実にものにしたいと思っております。

ふるさと納税とゼロカーボンに向けた取組、この2つが産業振興・経済の活性化・人材の確保や育成といったことにおきましても、新しい檜山の地域づくり・まちづくりのチャンスと捉えております。以上です。

### 【檜山振興局 山田局長】

ありがとうございます。各町長の皆様から一通りご発言をいただきました。ここまでの発言を踏まえまして、ご意見・ご質問等ございますでしょうか

(質問・意見等なしの声)

岡下部長はいかがでしょうか。

### 【函館開発建設部 岡下部長】

一通り首長様方からお話をいただいたところで、直接私どもの事業という観点でいいますと、函館江差自動車道の話が工藤町長からあったところですが、なかなか皆様の思うとおりに進んでいないというところがあるかもしれません。ですが、私どもも一緒になって、中央には皆様のご意見・ご要望を伝えていきますので、粘り強く引き続き活動をお願いしたいと思っております。

### 【檜山振興局 山田局長】

唐突なフリで失礼しました、ありがとうございます。

私からも1点、先ほど厚沢部町の保育園留学の話で、数週間の滞在の中で、管内の他の町にも行っているという話がありましたが、例えば、来られている方にアンケートをとって、滞在中にどこに行ったか等については把握されているのでしょうか。すみません、実務的なことかもしれませんが。

### 【厚沢部町 佐藤町長】

そこまで詳しくは分かっていないですけれども、来られる方はほとんどレンタカーで来られており、空いた時間に回るのは函館市内から檜山南部かなというイメージはあります。

### 【檜山振興局 山田局長】

ありがとうございます。厚沢部町だけではなく、近隣のエリアにも人の動きが実際にあると考えていくのも、交流人口・観光客を増やしていくという面で有効だと思っております。非常に参考になるお話だったと思います、ありがとうございます。

それでは、続きまして団体の皆様からご発言をお願いしたいと思います。

最初に、ひやま漁業協同組合・飯田専務理事、よろしくお願いします。

### 【ひやま漁業協同組合 飯田専務理事】

ひやま漁業協同組合です。よろしくお願いします。

昨年度の檜山管内の漁業実績といたしまして、基幹漁業でありますイカが依然として低水準でありましたが、うにやなまこなどの安定した水揚げ、鮭につきましては過去最高の水揚げとなり、5年ぶりに30億円以上の取り扱いとなりました。

長引くコロナ禍にありまして、一般鮮魚は消費が伸び悩みましたが、巣ごもり需要という言葉が流行るようになりまして、若手漁業者におきましては、独学でインターネットについて勉強し、HPの開設やネット販売、また、Youtuberとして檜山の魅力をアピールしております。特に、ネット販売において檜山の海産物が予想以上の高評価であり、外食ができない分、自宅でおいしいものを食べるという生活スタイルが定着してきているようにも思えます。現在においても需要は高く、原料不足など対応に苦慮しているところでもあります。

また、ネット販売以外に、海産物を取り扱っている漁業者の店でも、地元原料を使用した既存の加工商品はもとより、新たに手がけた商品も高評価で消費が伸びている状況であります。また、今は生産されておきませんが、檜山の優良ブランドでありました「檜山産釣りたらこ」を原料とした「紅乙女」の復活に向けた取組も行っています。

漁業関係者の描く将来像といたしまして、洋上風力関係に期待しております。檜山海域は強い季節風から、養殖漁業は非常に困難な海域となっておりますが、洋上風力には適した地であります。

現在、地域海域別に様々な調査が実施されておりますが、地域海域調査には警戒船また監視船として漁船が傭船されております。当初、多くの漁業者が面倒などの理由から参加せず、少数の漁業者しか作業に従事しておきませんでした。その傭船料が1隻あたり数百万円の収入となったことから、各地区において参加者を募り、均等に金額が配分される体制で対応することで、全体で数千万円の収入を得ることができ、経営の安定化が図られたところでございます。

事業化された際には、既存の漁業を営みながら、風車設置までの傭船料収入とあわせることにより、将来にわたり安定した経営が図られると期待しております。

また、漁業関係者全体としての漁業振興資金などを考えると、より早い時期での法定協議会の設置・促進を望んでいるところです。以上でございます。

### 【檜山振興局 山田局長】

ありがとうございます。洋上風力事業への期待感が強く示されていたと思います。

それでは続きまして、檜山建設協会・小林会長、よろしくお願いします。

### 【檜山建設協会 小林会長】

参画団体のうち、檜山建設協会の小林と申します。今日は声だけは大きく発言したいと思います。

先日、振興局から「じもと×しごと応援フェア」のご案内をいただき、地元への就職促進のツールとして大いに役立ち、多くの参加を期待しているところでもあります。事業者・団体側は、国・道・自治体の雇用対策・人材育成対策等の助成制度への理解をより一層深めなければなりません。当協会では、少数ではありますが、成果を望むべく積極的に活動に参加していると認識しております。

また、人材育成の一環で、教育機関への出向・研修等により、多種多様な分野において、技術や資格等を取得しております。そんな中で、地域性の高いはずの会員・団体等は、まだまだスローな感じがしてなりません。

今朝、一般社団法人檜山地域人材開発センター会長のお許しを得たので、1つ皆さんに提案させていただき、ご意見をお聞きしたいなという点があります。それは、まなびっくと地元高校がより密な情報提供の間柄になれないものかなということです。高校の授業に檜山産業界と結びついた選択科目を設定し、その場でまなびっくからの教育を提供します。それから、卒業後も、事業者が就職した側の合意のもと、専門知識取得のため、まなびっくから教育を提供します。

皆さんご存じですか。元の職業訓練校をお話してるやに思いますけれども、私が言っているのは、まなびっくと地元高校との密接な関係の構築について、是非皆さん、官民一体で一考してもらいたいなと希望しております。

また、檜山の建設業の現状と対策を少しかいつまんでお話させていただきます。今、大変苦慮しているのは、2024年問題であります。建設業が解決しなければならない労働環境問題であります。まさに、現在の建設業が抱える二つの問題、少子高齢化による人材不足及び長時間労働であります。国交省の2021年調査では、建設業における就業者数は、55歳以上が36%、29歳以下が11.8%と高齢化が深刻であります。一方、若年層の離職率は、他の年代層に比べ高いことがその資料から読み取れます。休みが取りづらい、労働に対して賃金が低い離職理由で、企業側も事業者側も認知しているところでもあります。

国交省は、対策の1つとして、週休2日等の休日確保する工期設定と施工時期の平準化に官民一体で取組む考えであり、働き方改革の必須対策であります。一方、民間工事においては、発注側の現状認識はその対策と少し乖離があることを申し添えておきます。

このような場で申し訳ないですけど、檜山管内の首長におかれましては、是非くれぐれもこの認識を深めていただければ、官民一体の連携の1つとして成果が望まれると思います。

除雪・災害時の対応等には、持続可能な地域であるために、積極的に各町建設協会や災害防止協議会、除雪協議会等が一刻も早く現状を認識し、共有し、官民一体となって協議会を重ねていくことが期待されております。

少し的外れた話になりましたけれども、檜山建設協会の発言とさせていただきます。ありがとうございます。

### 【檜山振興局 山田局長】

ありがとうございました。まなびっくを活用した地元高校との連携の話ですとか、建設業界の中での若手の離職の問題、2024年問題などポイントを絞ってお話していただきました。それらについては後ほど、まとめて話を進めていきたいと思っております。

それでは、最後になりますけれども、道南地方木材協会・春山専務理事、よろしくお願ひします。

### 【道南地方木材協会 春山専務理事】

道南地方木材協会の春山と申します。この会議には初めて出席させていただきます。ど

うぞよろしくお願いいたします。

我々は、林業・木材製造業ということですが、現状をお話させていただければと思います。昨年はウッドショック、それからロシアのウクライナ侵攻等によって外材が入らないということで、外材から国産材へ移行するというような取組が進められたところがございます。道南においても、本州から木材製造所への注文が殺到して対応しきれないということもあり、価格が上昇した状況でございます。

しかしながら、今年に入りましてさらに価格が上昇し、2割から3割も高くなったこともあり、なかなか住宅が建たなくなつたため、昨年の2割減になっているということもございます。製造業についても、燃料や電気代の高騰と住宅着工の減少に伴って、本州方面でも生産を調整していることもあり、函館港から船が出ていない状況で、道南の木材・丸太が貯まってしまい、地元の製材工場と木材を提供する道内業者のアンバランスな状況が続いております。

特に、トドマツの一般材についてはほとんど取引がなくなっているという状況でございます。ただ、北斗市でもございますけれども、木質バイオマスなどでは、まだ材が足りないというような状況でもありまして、少しアンバランスになっているという状況でございます。

将来的ということであると、檜山管内は森林面積が約80%になっておりますので、地域の資源ということで、森林についてはよく言われます。「伐って、使って、植えて、育てる」という循環の利用が可能であるということです。それは、ゼロカーボン北海道や二酸化炭素の吸収源対策に対しても、森林が大切になってきているということです。そのためには、森林整備というものが付随しなければならないということになります。

今の状況を見て、林業の職場も高齢化が進んでおります。残念ながら今年の北海道でも3名の方が死亡事故で亡くなっており、その亡くなった方については60代から80代というような状況になっております。

将来に向けて森林がなくなるということはないと思いますので、森林整備事業やそれを行う事業者の確保、担い手の確保にもう少し力をいれていく必要があるのではないかと思っております。当然、森林整備は、植えてから実際に伐採するまで長期間かかりますので、そういった環境をより強くするためにも、今言われております森林環境譲与税ですね、各町におかれましては様々なものに活用されていると思いますけれども、そういうものを利用していただき、木造化や木質化に取り組んでいただくことで、木材の需要と供給のバランスがとれた事業を今後も継続していけるように、皆様の力をお借りしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

### 【檜山振興局 山田局長】

ありがとうございます。先ほど今金町長からもお話のありました森林関係の話でして、奥尻町長などからお話のあったゼロカーボンとも共通する話だと思います。

管内の地域資源を活かした取組を進める中で、ゼロカーボン関係、森林を活かした取組というの、1つの大きな切り口なのかなと受け止めました。ありがとうございます。

以上で皆様に一通りご発言いただいたわけですが、全体をとおしまして、ご質問・ご意見などを賜りたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(質問・意見等なしの声)

### 【檜山振興局 山田局長】

先ほど、建設協会の小林会長からお話のありました、まなびっくと地元高校の連携につ

いて、首長の皆様から何かございませんでしょうか。具体なところはまだまだこれからというのはあるかもしれませんが。

### 【上ノ国町 工藤町長】

先ほど建設協会の小林会長がおっしゃられたとおり、我々首長としてもこれから災害関係などで何かあると、頼むのはどうしても建設協会さんとなります。そういったなか、相当高齢化が進んでいるということで、まなびっくと高校の連携という提案がありました。

高校となるとどうしても道立なものですから、どうしても北海道の力が必要です。当然、私たちも高校の存続のために様々な支援をしておりますので、ぜひ今のような話を北海道が中心となって進めて欲しいなど。当然ながら我々も応援できるものは応援していきます。

やはり、高校生に意見を聞くと地元で働きたいという人が8～9割います。ただ、今いる人にとって建設業は3Kとか4Kというイメージが強くて、相当採用活動に苦労しているというのは実際に聞いています。

しかしながら、私たちの町を存続させていくためには、建設業はなくてはならないものですから、ぜひとも北海道としても汗をかいて欲しいなど。我々、檜山町村会としても色々な形で参画していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

### 【檜山振興局 山田局長】

ありがとうございます。ただいまのお話、道立高校との連携のあり方も色々なパターンがあるのかもしれませんが。その辺については、地域事情や高校側の都合もあるかもしれないので、我々も檜山教育局とも話をしながら、どういうことが可能なのかよく考えていきたいと思っています。

今のお話のように、全体を通して、私としては観光関係でも色々なハード整備という「もの」の話、それから小林会長からもお話のあった「ひと」の話、これは両方が結びついて、うまいこと動かしていかないと地域資源を活かした取組というのも中途半端になっていくのではないかなと思っています。

そういう面で「もの」と「ひと」の両方を見据えた取組というのを、我々も各町の皆様とも連携しながら考えていきたいなど思っております。

はじめの方に上ノ国町さんから、小学校の廃校の跡地を使用している取組の紹介がありましたけれども、道内の他の町などでも、廃校になった小学校跡地を使ってビールの工場を作った会社があり、跡地の活用というのが、地元にとって1つの切り口になってくるのかなというふうに思っていますけれど、今、地元の各町において、学校にかかわらず使われてない施設を有効活用していくような取組をお考えになっているところですか、活用方法について困っている、思慮しているというようなところはありますか。

(発言なし)

### 【檜山振興局 山田局長】

そういうことも含めてですね、色々な切り口での取組というものが考えられるでしょうから、我々も、特に当局でしたら地域政策課が中心となってくるのかもしれませんが、実務的にも相談していただければなど思っております。

私の方から話がちょっと多くなってしまいましたけれども、皆様から他に何かございませんでしょうか。



### 【せたな町 高橋町長】

先ほど小林会長からもお話があったと思いますが、建設業界にしても福祉の業界にしても人材不足というのはかなり深刻な状況にあります。せたな町としては、人材確保に対する支援であるとか、資格取得に対する支援であるとか、少しばかりの支援はしておりますが、今の町の財政状況ではなかなか思い切った支援は困難です。

今、各町の地域資源の利用について聞かせていただいて、まだまだやることがあるなというふうに感じました。そこで、やはり新たな資源をお金にかえ、それを財源として次の手を打ち、今言ったような人材確保ですとか1次産業の振興も含めてですね、そういった施策を打つ、そのための財源に地域資源を利用するということは大事だと思って聞いていました。そういったものの磨き上げをすることによって、全道でも全国でも戦えるものは十分管内にあるなど、ただ、まだまだ磨いていない、原石のままだということだと思いますので、これは皆で知恵を絞って磨き上げることによって、今言ったような部分での解決を図れるのではないかと、それがやっぱり檜山地域の地方創生につながってくると、是非皆で知恵を絞り合って進めていければいいなと聞いておりました。参考にさせていただきたいと思います。

### 【檜山振興局 山田局長】

ありがとうございます。この地域には原石がたくさんあるということ、それをこれから皆で磨き上げていくんだということ、大変ありがたく聞かせていただきました。我々も、開建さんとも一緒に、それから町の皆さん、各団体の皆さんと一緒に、短い時間でしたので今日出た話題が全てではないと思いますので、もっと多くの原石を見つけて、拾い出して、磨き上げていくような努力をしていきたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

他には、ご意見等ございませんでしょうか。

(質問・意見等なしの声)

それでは、函館開発建設部・岡下部長、皆様のご発言などを受けまして、何か一言ございましたら、よろしくお願いします。

### 【函館開発建設部 岡下部長】

長時間にわたりありがとうございます。一通り皆様のお話を伺って、私も大変勉強になりました。

私どもの仕事上、河川とか道路とか港とか、そういったインフラ整備を通じて地域の発展といいますか、地域づくりのお手伝いをしていくという立場ではございますけれども、今色々話を聞いていくなかで1つ、寺島町長が始めにおっしゃっていた、交流人口・関係人口を増やしていかないといけないというお話について、そういう視点で見ると、確かに人口減少という意味では非常に厳しい地域ではありますけれども、そこを交流人口・関係人口を増やしていくという視点を忘れなければ、ある程度の部分を補っていただけるのだらうとも思えますし、最後のほうにも意見がありました、人材という資源もなかなか確保ができなくなってきている中で、限られた人材にどう最大限活躍していただくかという視点でいくと、照井町長のお話にもありましたMaaSの話もある意味、少ない担い手、働き手にどう効率的に働いていただくか、そういった視点みたいなものが重要になってくるのかなと思います。こういった悩みは全国ほとんどの自治体が抱えていて、それがあ

人口の減り幅が大きい北海道の中でも特に大きい檜山地方という意味では、今後の解決に向けて、色々参考となる取組に皆様悩みながら取り組んでいらっしゃると思いました。

最後に高橋町長がおっしゃっていた、全道・全国でも戦えるというお話と、まだまだ磨いていける部分があるので、色々悩んで知恵を絞りましょうと、確かにこのことに尽きるのかなと私も思った次第であります。引き続き私どもも、様々な立場でお手伝いしながら、地域の皆様の課題解決に少しでも貢献していきたいと思った次第であります。本日はありがとうございます。

### **【檜山振興局 山田局長】**

ありがとうございます。最後になりますけれども、全体を通しまして、何かご質問・ご意見等はございますでしょうか。

(質問・意見等なしの声)

ないようですので、皆様には長時間にわたりまして、議事進行にご協力いただき、また様々な貴重なご意見を頂きまして大変ありがとうございました。今後とも、皆様と一緒に意見交換をさらに重ねてですね、地域づくりを進めて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして、檜山地域づくり連携会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

# 令和5年度 檜山地域づくり連携会議 名簿

日時：令和5年8月7日(水)14:00~15:30  
場所：檜山振興局 別館4階 講堂

## 【構成員】

職 名	氏 名	備 考
江 差 町 長	照 井 誉之介	
上 ノ 国 町 長	工 藤 昇	
厚 沢 部 町 長	佐 藤 正 秀	
乙 部 町 長	寺 島 努	
奥 尻 町 副 町 長	田 中 敦 詞	代理出席
今 金 町 長	中 島 光 弘	
せ た な 町 長	高 橋 貞 光	
北 海 道 開 発 局 函 館 開 発 建 設 部 長	岡 下 淳	
北 海 道 檜 山 振 興 局 長	山 田 哲 史	

## 【参画団体】

団 体 名	職・氏名	備 考
ひやま漁業協同組合	専務理事 飯 田 豊	代理出席
檜 山 建 設 協 会	会 長 小 林 誠	
道 南 地 方 木 材 協 会	専務理事 春 山 邦 明	代理出席